

2021 年度全関東大会団体、個人予選

実施細則

●団体予選について

〈団体予選要項〉

1. 日時

令和3年6月19日土曜（男子）

令和3年6月20日日曜（女子）

10：00～競技開始

競技開始30分前以降の付け矢は禁止とします。

立順用紙は都学連ホームページより印刷し、当日に立ち合いなどに提出してください。

2. 会場

加盟校ホーム道場(道場がない大学は外部の道場を借り入れること)

3. 競技内容

種目 弓道近的（36cm星的 射距離28m）

競技方法

男子団体戦（予選） 各校6人 1人4射（制限時間9分半）

女子団体戦（予選） 各校3人 1人4射（制限時間6分）

※アリーナにて同中競射を行えないため、すべての予選参加校は四矢を引いたのちもう一度四矢を引いて記録を取る。

※決勝進出校は、予選の四本の的中をもって決める。ただし同中競射の必要が生じた場合は二度目に引いた四矢を一手、一本、一本の競射として参照し、決勝進出校を決めるものとする。決勝進出校数は男女とも24に最も近い校数として、24からの数の変動が等しい場合は少ない校数とする。

※シード校の決定において同中の場合は、予備の4本の的中をもって決める。予備の4本でも決定できない場合は、トーナメント抽選会において抽選でこれを決定する。

※2度目の四矢に移行するときに選手交代を認める。なお、立ち順移動・一度交代し

た選手の再出場は認めない。

※競技は両校が同時に引くこととする。

※一回目と二回目の間には最大 15 分のインターバルを置いて良い。

※一回目と二回目の間に選手交代をすることは可能とする。

< 競技方法総則 >

①36 cm星的 射距離 28m 団体戦

(男子) 6人順立 1人4射 立時間制限9分30秒

(女子) 3人順立 1人4射 立時間制限6分

(¹行射開始の合図から落の4射目の離れまで。

但し、弦切れの場合(複数切れても)最大1分延長)

※アリーナにて同中競射を行えないため、すべての予選参加校は四矢を引いたのちもう一度四矢を引き、記録を取る。

※予備の四矢の制限時間も男子9分30分、女子6分とします。

※決勝進出校は、予選の4本の的中をもって決める。ただし同中競射の必要が生じた場合は二度目に引いた四矢を一手、一本、一本の競射として参照し、決勝進出校を決めるものとする。

決勝進出校数は男女とも24に最も近い校数として、24からの数の変動が等しい場合は少ない校数とする。

※紙的を使用してください。

※時間切れの後の的中は無効とする。時間切れの判断基準は離れとする。

※追い越し発射は、その矢を無効として失中とする。「追い越し発射」とは、団体戦においては、自分のチームの前の選手より先に射離すことを意味する(大前の場合は二射目以後落より先に射離すこと)。

射場進行について

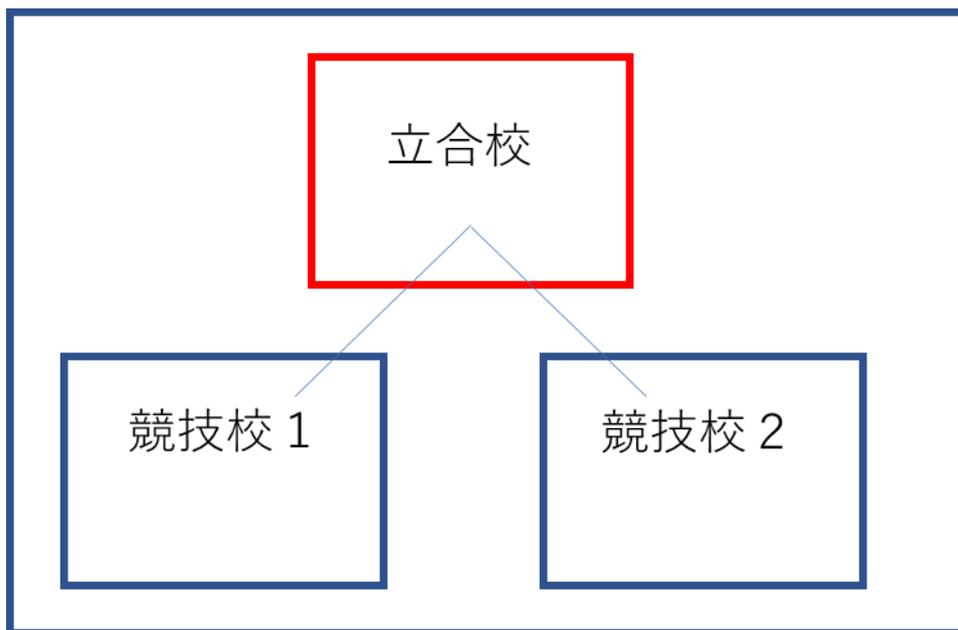
審判員の「本座にお進みください」で本座に進み、「射位にお入り下さい」の声とともに射位へ進む。そして、「行射を開始して下さい」の声とともに行射を開始する。(立制限時

¹ 大前の胴造りが終了した時点で審判員が「行射を開始して下さい」と合図を行う。

間は「行射を開始して下さい」の放送でスタート)

< 競技方法各則 >

原則として、2大学がそれぞれ競技を行い相互監視し、さらに第三の大学が立ち合いとして記録を取る方法で行う。



<通信機器利用の注意事項>

①下のリンク先にある動画（東京都学生弓道連盟作成）にて当日のスマートフォン・端末の使用方法を確認すること。

→→ <https://youtu.be/qjbJjn0Hx4E> ←←

②撮影機器は 2 台用意することが望ましい。一台は射場を撮影するもの、もう一台は的場を撮影するものと区別する。

③通信状況が途絶える可能性がある場合には、更に、あとから確認できる録画映像を撮影することが望ましい。

- ① スマートフォン等はなるべく高い画質を維持するため外カメラを推奨する。
- ② zoom アプリは通常利用する場合 40 分までしか連続して接続できないため、それを超えて利用する場合にはその都度接続し直す必要がある。時間制限が延長される（Standard Pro 以上のプランに加入している）アカウントを利用するか適直接続しなおすことが望ましい。
- ③ 通信機器のバッテリーと合わせて上記は事前に確認しておくことが望ましい。

<会場利用の注意事項>

- ① 的は綺麗なものを使用すること。原則として紙的を使用すること
- ② 当日は、立ち合いから直接に又は zoom の映像を通して射場、的場、使用的などに異常がないか点検を受ける。立ち合いは以下のような点を確認する。
 - ・射場と的場に異常がないか
 - ・的の高さは適切か
 - ・的（的紙、的枠、候串等）に不正がないか
- ③ 競技中及び競技の合間における的の交換は立ち合いの判断に依る。

- ④ 当日に会場に入ることができる者は、団体の選手・補欠のほか介添え・監督・応援を含む。ただし、会場となる大学からの指示がある場合はそちらに従うこと。

- ⑤ その他「大会必携」の感染症対策を厳守すること。

●個人予選について

〈個人予選要項〉

1.日時

令和3年6月19日土曜（男子）

令和3年6月20日日曜（女子）

11：00～競技開始

競技開始90分前以降の付け矢は禁止とします。

2.会場

加盟校ホーム道場(道場がない大学は外部の道場を借り入れること)

3. 競技内容

種目 弓道近的（36cm星的 射距離28m）

競技方法

<u>男子</u>	一次予選	2射皆中通過
	二次予選	4射皆中通過

<u>女子</u>	一次予選	4射2中以上通過
	二次予選	4射3中以上通過

- ・立射・持ち矢を引ききる（**決定退場なし**）
- ・一次、二次予選は、六人順立（追い越しは失格）

※例年は一、三、五同時打ち起こしで実施しておりますが、本年度予選はオンラインのため順立と致します。

〈予選当日までの流れ〉

競技・審判に直接には関わらないものの、便宜上、参加校の担当者が予選前日までに済ます必要のある事項をまとめる。

- ① 所属グループの割り当てを受ける

団体戦参加登録後に東京都学生弓道連盟並びに関東学生弓道連盟が行う。2つ以上の参

加校からなるグループを作成する。

原則として、団体予選時のグループと同じとする。

※近日公開致します。もうしばらくお待ちください。

② 会場および方式、その他予選を円滑に行うための話し合いをする。

グループ内の大学は協議を行うことを原則とする。

※個人予選の立順は後ほどホームページで公開します、個人予選記録用紙に記載されたものをご確認ください。

的中確認を円滑にすすめるため、必ず個人予選記録用紙に記載された立順で競技を行ってください。

< 競技方法総則 >

競技方法

<u>男子</u>	一次予選	2射皆中通過
	二次予選	4射皆中通過
<u>女子</u>	一次予選	4射2中以上通過
	二次予選	4射3中以上通過

- ・ 立射・持ち矢を引ききる（**決定退場なし**）
- ・ 一次、二次予選は、六人順立（追い越しは失格）

※例年は一、三、五同時打ち起こしで実施しておりますが、本年度予選はオンラインのため順立と致します。

射場進行について

審判員の「本座にお進みください」で本座に進み、「射位にお入り下さい」の声とともに射位へ進む。そして、「行射を開始して下さい」の声とともに行射を開始する。

一次予選と二次予選のインターバルは最大 20 分とする(その時間中の付け矢は禁止とする)。

※個人予選の競技方法各則、通信機器利用の注意事項、会場利用の注意事項については団体予選のものをご覧ください。

オンラインマニュアル

試合形式

○競技：A 大学、B 大学 立合い C 大学

A、B 大学の用意する端末

① 射場を撮影するもの（ZOOM 接続）

② 的場を撮影するもの（ZOOM 接続）

※上記のどちらかの端末から一本ごとの○×を声で立ち合いに伝えること。

③相手校的的中を立ち合い（C 大学）と共に確認するもの

C 大学の用意する端末（立合いは 2 人）

① A 大学を確認する用

② B 大学を確認する用

○試合進行（男女共通）

A/B 大学 予選 4 射 → 同中競射分 4 射

同時に立が行われ、確認のタイミングや的中報告がかぶるため、部屋は 2 つ必要となります。

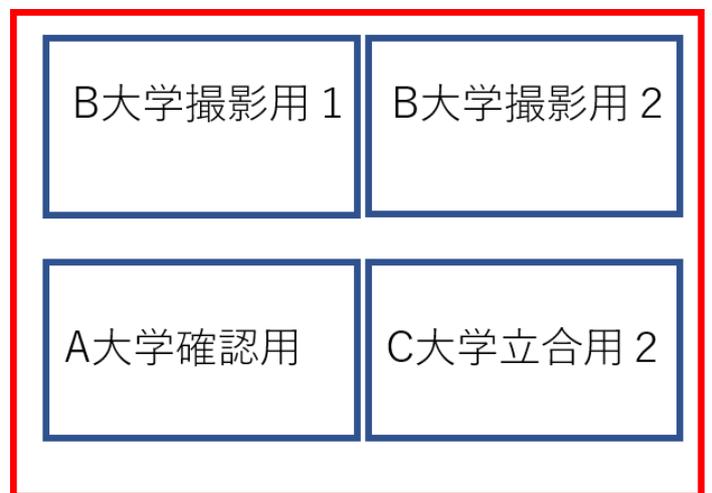
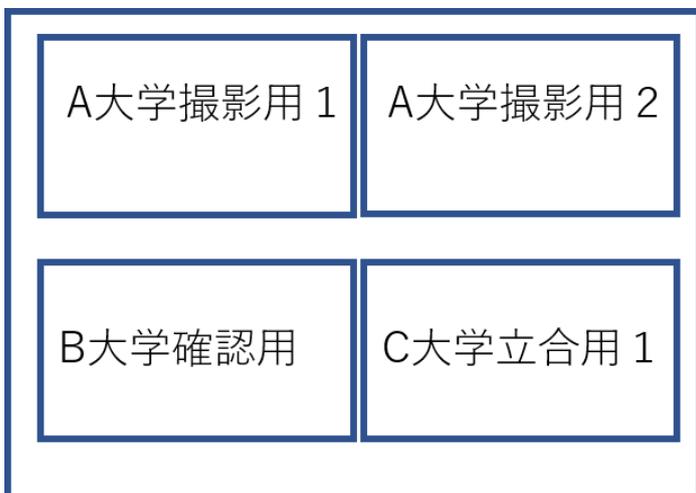
Zoom のブレイクアウト機能を使うと便利であるため推奨します。

① A 大学的的中確認用

A 大学デバイス①/②・B 大学デバイス③・C 大学（立合い）

② B 大学的的中確認用

B 大学デバイス①/②・A 大学デバイス③・C 大学（立合い）



※競技を行う大学の二校ではなく立ち合いも含めた三校で行うことは競技の公平性、信頼性を高めるためです。お手を煩わせてしまいますが何卒宜しくお願い致します。

※zoom に限らず line 通話などよりスムーズに試合が行えるツールがあればそちらをご使用いただいても構いません。

タイムスケジュール

9：30 以降の付け矢禁止

Zoom に接続

9：55 選手、立ち順の確認

10：00 予選開始

以降競射分4射も行い、終了

確認の仕方やカメラの角度は都学連 YouTube にアップロードされている動画「リーグ戦代替大会オンラインマニュアル」を参照してください。

試合中

各立ちの確認が終わるたびに記録用紙を画面に見せる、写真に撮って line グループに投稿するなどの方法で必ず的中を照合してください。

以下に各デバイスの試合中の動きを示します。

デバイス①（射場）

主審の試合開始宣言を受け次第、試合の様子を映す。

全ての的を終始映したまま、可能な限り引いている選手の様子を映す。

(微妙な矢は「後で確認します」「保留でお願いします」)

↓

確認中、安土での的中を操作していないことを担保するため、全ての的を映したままにしておく

↓

繰り返し

デバイス②（的場）

看的からの的を映す。

撮影者が中った際は「○」抜いた際は「×」とその場で一本一本申告する。

（微妙な矢は「後で確認します」「保留をお願いします」）

確認の際、デバイスを持って安土に出て、一的ごとに的中の確認をする。

- ・立合い/対戦校による的中の確認が済むまで次の的に移動しないこと。
- ・全ての的的中が確認されるまで、決して矢には触れないこと。

確認が終わったら矢を取り、次の回の前に的の確認を行う。

デバイス③（対戦校的中確認用）

相手校の様子を監視し、申告される「○」「×」を記録しておく。

各立ごとに立合いとともに的中を確認し、問題無ければその旨を伝え、次の立へ進む。

※団体、個人予選ともに競技を円滑に進行するために事前の話し合いをお願いします。